

縄文太鼓が結ぶ素敵なお縁 ジャンベ・縄文太鼓演奏家 茂呂剛伸さん

日頃、北の縄文道民会議の皆様には大変お世話になっており、心から感謝申し上げます。

「茂呂さん、あなたの演奏するジャンベ太鼓の音色は縄文の音がする。あなたが縄文太鼓を創案し世界に広めなさい」札幌大学名誉教授（詩人）原子修先生の一言で縄文太鼓は生まれました。



表現を愛し、争いを避ける哲学を持ち、平和を大切にしながら、自然と共に1万年以上続いた縄文文化。「世界は人間なしに始まったし、人間なしに終わるだろう」という一言は、文化人類学者レヴィ=ストロースの言葉で、世界中の人々が深く共感し大切にしている言葉です。1

万年も争わないで生きてきた自分たちの先祖である縄文人のDNAが私たちに入っている、なんだかそれだけでも未来に希望が持てるんじゃないかなと思っています。

私は縄文太鼓の活動を通じて、本当にたくさんの素晴らしい出会いに恵まれてきました。

今回、世界的なトランペッター日野皓正さんと一緒に縄文文化の循環思想をテーマにしたCDを制作させていただけることになりました。6月10日の日刊スポーツ紙の記事にもなりましたが、「縄文文化を音楽で世界に発信したい」という熱意を日野さんに共感いただき、「茂呂さんはすごい人。楽しいし、湧き上がってくる情熱がすごい。彼のリズムが大好きだし一緒にやりたいと思った」とのありがたいお言葉をい



ただきました。縄文太鼓については「僕の弟はドラマーだし、父はタップダンスをやっていた。ジャズのリズムは、その昔の奴隷制があった時代までさかのぼる。どんな太鼓も同じで、それよりも、たたく人の人間性が出る、深くクリエイティブなものなんだ」とのこと。太鼓というものの奥深さに改めて気持ちが引き締められました。

2023年11月7日には札幌コンサートホールキタラ小ホールで、日野さん、そしてピアニスト作曲家の福田基さん、さらに現在映画『BLUE GIANT』主人公の演奏を担当したサクソ奏者・馬場智章さんもゲストインいただき、CD発売記念コンサートの開催が決定しました。詳細は7月頃発表予定ですが、是非、ご期待いただければ嬉しいです。

最後になりましたが、これからも、北の縄文文化の魅力を皆様と世界に発信したいと思います。



北の縄文

HOKKAIDO JOMONCLUB NEWSLETTER

巻頭あいさつ

北の縄文道民会議
副代表 安田 光春

北海道経済同友会 代表幹事
株式会社北洋銀行 取締役頭取



CONTENTS

- P1 巻頭あいさつ
- P2-3 「北の縄文世界と国宝」の見どころ 他
- P4-5 北の縄文文化回廊を巡って（第3回）
- P6 道民会議からのお知らせ
- P7 縄文世界遺産推進室からのお知らせ
- P8 会員情報、編集後記

北海道経済同友会では、委員会活動の中で自由闊達な議論を通じ、様々な提言を行っています。

この4月には、当会の北海道地域活性化委員会において報告書「北海道の未来を拓くヒトづくり～食・観光の針路を踏まえて～」を完成いたしました。

本報告書の中で、北海道の「食・観光」におけるヒトづくりの方向性の一つとして「地域や仕事への理解を深め、地域に愛着と誇りを持った人材を育てる」を掲げています。

まさに「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録は、国内はもとより世界に北海道をアピールできる絶好の機会となり、この絶好の機会をいかに発揮するためには、上記に掲げた方向性「人材を育てる」が鍵となります。

一人一人が「縄文遺跡群自体がその地域独自の魅力として高い価値を有し、付加価値を生み出していること」を知り、各地域にある小学校・中学校・高校における学びを通じて、若い世代が縄文遺跡群の意義を自ら考えることが、地域への理解を深め、地域に愛着と誇りを持った人材を育てることになると考えます。

この5月には新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、コロナ禍前の日常に戻りつつあり、インバウンドを中心に多くの観光客が北海道を訪れ、地域交流が活発化しています。

私どもの経済同友会では年に一度「東北・北海道ブロック会議」を開催し、昨年10月には仙台市で会議が開催され、今年は北東北の縄文遺跡群がある岩手県での開催を予定しています。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録により、「東北・北海道ブロック会議」の重要性が一層増しており、本会議を通じて北海道と東北の会員同士の交流を深めてまいります。また「札幌広福四極円卓会議」を札幌、仙台、広島、福岡の経済同友会が持ち回りで開催し、昨年9月には当会が主催で札幌市において開催しました。会議後のエクスカージョンでは、白老の「アイヌ民族共生象徴空間（ウポポイ）」を視察し、各同友会の幹部の方々に北海道のアイヌ文化に触れていただくことができました。

今年の9月には北海道でアドベンチャー・トラベル・ワールドサミット（ATWS）が開催されます。

このATWSにおける北海道のポテンシャルは、世界文化遺産に登録された縄文遺跡群やアイヌ文化といった「北海道独自の文化」、世界自然遺産の知床をはじめとした「美しく雄大な自然」や「豊かな食」、サイクリングやカヌー、スキーといった「多様なアクティビティ」を楽しむ環境が整っており、四季を通じて楽しめるATコンテンツが豊富にそろっていることです。この機会に、北海道独自の文化の一つである縄文遺跡群に触れ、北海道の魅力を十分に堪能していただきたいと考えております。

北海道経済同友会としても、身近にある世界遺産や北海道の魅力を積極的に発信し、道内はもとより、道外、国外の多くの方々にお越しいただくよう、全力で取り組んで参ります。

編集

後記

・今年7月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界文化遺産に登録されてから2周年を迎えます。今号は2周年にちなんで情報を掲載しました。ご協力をいただいた皆さまにお礼申し上げます。

5月、新型コロナウイルス感染症の行動制限が解除され、「平時」に戻った北海道は今、国内外の観光客が急増中です。道内の構成遺産ではガイド施設、アクセス道路などの整備が急ピッチで進められ、利便性の向上がはかられています。

文字を持たず、1万年もの間、豊かな精神性・芸術性を紡いだ縄文の人々。今年の夏はガイドブック片手に「縄文旅」に出かけてみませんか。（T・H）（U・A）（Y・T）

編集・発行：世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議

編集長 谷 紘道 編集委員 梅田 彩加、依田 妙恵

TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail ebisutani@chuo-bus.co.jp

見所のポイントはここです

開催期間：7月22日～10日1日 場所：北海道博物館
 主催：北の縄文世界と国宝展実行委員会（北海道新聞社、北海道NHK札幌放送局）
 ★道民会議も後援しています！

本特別展は、国宝の土偶や土器など代表的な縄文時代の優品からその凄さを感じてもらい、さらに世界遺産としての縄文遺跡群の価値を学ぶことで、縄文を未来へ伝えよう！という趣旨で開催します。展示構成および見所のポイントをご紹介します。

1章 縄文の心と美

「縄文の心」をいまに伝える土偶や土面を中心に展示しています。また、「縄文の美」として現代の伝統工芸にも通じる日常のなかの美について紹介しており、漆製品に見られる「赤と黒の世界」など縄文時代の精神性を感じられると思います。ここでは国宝や重要文化財など日本を代表する優品を展示しています。テーマは「感じる」feelです。

2章 世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値

ユネスコ世界遺産に登録されたのは、「縄文文化」そのものではなく、「農耕以前の定住生活のあり方と精緻な精神文化」です。定住＝農耕という世界の常識を覆した縄文の採集・漁労・狩猟による定住生活と精神文化の変遷を知るために、世界遺産となった17遺跡と出土品を定住の開始・発展・成熟の順に展示し、分かりやすく説明しています。テーマは「知る」discoverです。

3章 世界遺産とは

世界遺産を管理するユネスコの理念は、「心のなかに平和の砦を築く」こと。多くの国家間の紛争は、互いの歴史・文化・価値観を知らないために起こっています。地球上には様々な地域がありますが、そこには地域に根ざした歴史・文化が流れており、その多様な価値観を世界が認め、共に守ることで、国家間の相互の理解を促進し、国際社会の平和の実現に寄与するという世界遺産の役割を学ぶことができます。テーマは「学ぶ」learnです。

4章 縄文文化を未来へ

現在、遺跡ボランティアの他、縄文文化に魅力を感じて、土器・土偶づくりや縄文グッズを販売するなど、様々な活動が展開しています。こうした活動は、楽しみながら縄文遺跡群の価値を伝え、遺跡の保全に対する気運の醸成にとっても大切な取組です。一万年以上続いた縄文文化。ここでは、ほんの一部ですが、その価値を将来にわたって伝えていく人たちの様々な活動を紹介しています。テーマ「伝える」hand downです。



縄文のビーナス 国宝 (長野県茅野市棚畑遺跡) 火炎型土器 国宝 (新潟県十日町市篠山遺跡)



足形土版 (函館市垣ノ島遺跡) 匙形製品(手前:鯨骨/奥:鹿角) (伊達市北黄金貝塚)



深鉢形土器 (函館市大船遺跡) ヒスイ大珠 (洞爺湖町入江貝塚)



石棒 (洞爺湖町高砂貝塚) 土偶 (洞爺湖町高砂貝塚)



ユネスコ本部/パリ

「北の縄文世界と国宝」展 関連イベントをご紹介します

本特別展の会期中、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」フォーラムや、ミュージアムカレッジ「北の縄文世界と国宝」展ができるまで、特別イベント「北の縄文を知る」のほか、お子様とも気軽に楽しめるワークショップが北海道博物館講堂で開催されます。7月11日から「北の縄文世界と国宝」公式ホームページで申し込みを受け付けます。公式ホームページ <http://event.hokkaido-np.co.jp/jomon/event/> 

1「縄文スイーツをつくろう！」

日時：8月5日(土) ①11:00～11:45 ②14:00～14:45
 定員：各回小学生とその保護者30組。1人の保護者につき小学生2人まで可。
 応募多数の場合は抽選

参加料：無料(ただし、「北の縄文世界と国宝」の入場半券か入場券が必要)
 内容：お菓子を使って「縄文スイーツ」を作ります。作ったスイーツはその場でお召し上がりください。使わなかった材料はお持ち帰りいただけます。

申込締切日：7月23日(日)
 運営：ドニワ部、協力：株式会社 明治

2「おしゃれメガネをつくろう！」

日時：8月26日(土) ①11:00～11:45 ②14:00～14:45
 定員：各回30人 小学生以上(小学生は要保護者同伴)、応募多数の場合は抽選
 参加料：600円(当日会場で支払い)

内容：カラフルなシールを使って、遮光器土偶の目元を可愛くアレンジした「おしゃれメガネ」を作ります。

申込締切日：8月8日(火)

3「国宝指定記念 遠軽の黒曜石で石器づくりワークショップ」

日時：8月27日(日) ①10:30～12:00 ②13:30～15:00
 定員：各回30人、応募多数の場合は抽選
 参加料：無料(ただし、「北の縄文世界と国宝」の入場半券か入場券が必要)

内容：2023年6月に国宝指定された、遠軽町の白滝遺跡群から出土した黒曜石製石器の解説と、講師による石器づくりをご覧いただけます。

講師：遠軽埋蔵文化財センター学芸員 瀬下直人氏
 聞き手：北海道縄文世界遺産推進室 村本周三氏

申込締切日：8月16日(水)

4「手のひらサイズの土偶 or 縄文土器をつくろう！」

日時：9月10日(日) ①10:30～12:30 ②14:30～16:30
 定員：各回30人 小学生以上(小学生は要保護者同伴)、応募多数の場合は抽選
 参加料：1500円(当日会場で支払い)

内容：焼成しなくても乾燥させるだけで素焼きの風合いを楽しめる粘土を使って、小さな土偶や土器を作ります。出来上がった作品はそのままお持ち帰りいただけます。

申込締切日：8月30日(水)

運営：ドニワ部



縄文スイーツ(イメージ)



おしゃれメガネをつくろう



国宝 黒曜石製石器 (遠軽町白滝)



土偶 or 縄文土器をつくろう

主催：北の縄文世界と国宝展実行委員会（北海道新聞社、北海道）、共催：北海道博物館